

審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1359 号	氏名	渡辺 まゆみ
審査担当者	主査	三橋 睦子	三橋 睦子 (印)
	副主査	山下 裕史朗	山下 裕史朗 (印)
	副主査	石川 達也	石川 達也 (印)
主論文題目：Roles of Visiting Nurses in Supporting Medically Dependent Children Living at Home (在宅で生活する医療依存度の高い子どもへの訪問看護師の役割に関する研究)			

審査結果の要旨 (意見)

重い障害をもつ子どもは、NICU を退院後、引き続き人工呼吸器や胃瘻を使用し、痰の吸引や経管栄養など医療的ケアが日常的に必要である。全国で在宅の医ケア児は約 2 万人と推計され、2021 年 9 月に「医療的ケア児支援法」により行政の責務が定められ、訪問看護師への教育プログラムのニーズはさらに高くなる事が推測され、本研究の意義は大きい。

本研究では、構造方程式モデリングを活用し、確証的分析により 5 人のインタビューで得られた項目を既存の役割構造に当てはめて、「構造的役割」「対人役割」「役割過程」を訪問看護師の役割構造と仮説を立てて分析されている点において、その妥当性が懸念される。探索的分析により、仮説とされている構造の妥当性・信頼性を確認されることで、本研究の精度がさらに高く評価されると考える。また、今回潜在因子への影響を認めた、「社会人になって」「5 年以上」についても、教育プログラムへの活用法の検討が必要と考える。

論文要旨

本研究の目的は、医療依存度の高い子どもへの訪問看護時に看護師が担っている役割の構成要素かを明らかにし、訪問看護に関する教育プログラムの基礎資料を得ることである。子どもの訪問看護を実践している看護師 296 名を対象とした。看護師が担っている役割を予備調査で明らかになった「対人役割」「構造的役割」「役割過程」とし、構造方程式モデリングを活用し分析した。

「対人役割」の構成要素は<子どもへの関わり (パス係数 0.87)><家族員への関わり (パス係数 0.92)><家族全体の調整 (パス係数 0.90)><連携 (パス係数 0.77)>であった。

「構造的役割」の構成要素は<訪問看護の体制 (パス係数 0.71)><訪問看護師の技術 (パス係数 0.85)>であった。「役割過程」の構成要素は<成長する内容 (パス係数 0.70)><将来の在り方 (パス係数 0.55)>であった。

役割間の相関は、「対人役割」と「構造的役割」は 0.88 と強い正の相関が示されたが、「対人役割」と「役割過程」は 0.28、「構造的役割」と「役割過程」は 0.14 とそれぞれ弱い正の相関が示された。結果より、看護師としての成長を認め、内省する教育の必要性が示唆された。